

《カトリック大和高田教会 お知らせ》 2025 年 6 月 8 日

典 礼 暦	日 時 など
聖霊降臨の主日(祭)	6月 8日 (日) ベトナム語ミサ 14:00
	6月12日 (木) ミサ 10:30
	6月14日 (土) ミサ 8:00
三位一体の主日(祭)	6月15日 (日) ミサ 8:30
	6月19日 (木) ミサ 10:30
	6月21日 (土) ミサ 8:00

【京都司教区】

●京都チェジュ姉妹教区交流月間(毎年6月)【掲示板 参照】

京都教区とチェジュ教区は、2005 年 6 月 7 日に姉妹教区の縁組をし、司祭・神学生・信徒間の交流が行われています。これを記念して、京都教区は毎年 6 月を姉妹教区交流月間としています。

【奈良ブロック】

●2025 年度「聖書を学ぶ会」一テーマ「希望の巡礼者の聖年」

回	日 時	会 場	講師／「サブテーマ」
3	6 月 21 日(土) 10:30～12:00	大和八木 教会	奥村豊神父(京都司教区)／ 「希望に錨を下ろして」
4	7 月 12 日(土) 10:30～12:00	奈良教会	英隆一朗神父(イエズス会)／ 「希望をあかしして生きる」

●奈良県青少年の集い (詳細は、掲示板をご覧ください)

日時：2025 年 6 月 14 日(土)18:00～15 日(日)12:00、昼食後解散

会場：西大和カトリックセンター

指導：サレジオ会・四日市志願院(神父、修道士、高校生志願生)

サレジアン・シスターズ

●奈良ブロック・合同堅信式のお知らせ

9 月 28 日(日)、大和八木教会の予定です。

受堅をお望みの方は、司祭、または役員へ申し出で下さい。

【大和高田教会】

◎本日(6 月 8 日(日))、ベトナム語ミサ中に結婚式があります。

新郎：フランシスコ(洗礼名)さんと

新婦：テレサス(洗礼名)さんです。

おめでとうございます。お二人のためにお祈り下さい。

◎地区集会を 6 月 15 日(日)ミサ後に行います。

◎「教区時報」／「心のともしび」6 月号が届いています。

ホールにありますので、お持ち帰り下さい

◎カトリックニュース・ダイジェスト 5 月号が届いています。

1 部は新聞綴りに保管しました。ホール内で閲覧して下さい。

7 部は『回覧』用です。インターネット
を利用できない方は自由に回覧下さい。

右のQRコードで「カトリックダイジェ
スト・ニュース」のホームページを閲覧
することが出来ます。



◎典礼部会を行います。

6 月 22 日(日)ミサ後、小聖堂で行います。

29 日(日)ミサ後には聖具磨きを行います。ご協力下さい。

◎国際協力委員会から。「日本語教室」の会場が 6 月 8 日から
変更になりました。

新会場はさざんかホール 1 階の『きらきらステーション内』
になりました。引き続きボランティアスタッフを募集中です。

◎「聖書の分かち合い」(Sr. ローマ)：6 月 12 日(木)ミサ後

◆ 教会掃除当番

6 月 8 日(日)結婚披露宴終了後：D 地区

6 月 14 日(土)9:00～：A B 地区

6月8日 聖霊降臨 ヨハネ 14 章 15～16、23b～26 節 宣教する共同体に働く霊

今日の福音はイエスによる聖霊降臨の予告です。四つの福音書には五旬祭の出来事が記されていないので、「来るべき聖霊降臨」についての教えとなっています。実はこの箇所は復活節第6主日の福音朗読箇所と重なっています。多少ずれてはいるのですがイエスの言いたいことは同じです。こういうときに説教をする立場としては困るのですが、幸い共同宣教司牧なので同じ教会ではありませんので助かります。とはいえ、このコーナーでは同じことを書くわけにはいけませんので、第一朗読も併せて聖霊降臨の意味について考えてみたいと思います。

聖霊降臨のことはペンテコステとも呼ばれます。それは五十番目という意味のギリシア語で、ユダヤ教の五旬祭の日に起きた出来事だからです。ちなみに5はペンタなので、五角形の建物であるアメリカ合衆国国防省はペンタゴンと呼ばれています。

ヨハネの福音書ではイエスが復活されて弟子たちに現れたときに「聖霊を受けなさい」と言って息を吹きかけられます。これがA年の朗読箇所です。イエスが昇天される前の出来事なので、「どっちが聖霊降臨なん？」と言いたくなりますが、ヨハネでは復活と聖霊降臨、そして派遣が分かちがたい出来事であることが強調されているのでしょう。

教会では受難と復活、昇天、聖霊降臨が別々の日に祝われますが、その意味はつながっています。受難と復活により罪の赦しと救いが完成し、昇天によって人間としての御子はいらっしゃらなくなりましたが、霊として来てくださいました。これは主がともにおられるためのプロセスであると言ってもいいと思います。先週、「姿が見えなくなったのは、心の中に来られたからだ」と書きましたが、心の中に来られるイエスのことを聖霊と呼んでもいいでしょう。聖霊は父と子から送られる霊であるからです。

第一朗読の使徒言行録では、聖霊を受けた弟子たちが各地の言葉で話す様子が記されています。かといって、英語の試験のときに「聖霊来てください」と祈ってもいきなり英語ができるわけではありません。しかし、ここに記されている地名はこののちイエスの教えが広まっていく場所です。この出来事はそのような国々に教えが伝わるしるしとして表されているのでしょう。弟子たちは多くの協力者に助けられ、自らも言葉を学ぶことによって福音を伝える努力をしました。そして、あらゆる国々の人々が「彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを」聞く時代がこれから到来するのです。

聖霊降臨は教会の始まりと言われています。弟子たちに霊が降ったのは、イエスの教えを広めるためでした。ということは、聖霊は教会共同体に働くものであるといえます。「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる」(マタイ18章20節)とイエスは言われました。集まるところとは教会、その中に来てくださるのは聖霊だということなのです。

(柳本神父)